

．むすび

韓国におけるボランティア活動とは何か。本稿はそれを少しでも明らかにしようと探究した研究である。そして問題は、韓国で長い間、姿を変えながら行われてきた既存の活動に「ボランティア活動」という西欧の用語をそのまま用いていることにあると気付いた。アンケート調査等で多くの助言をいただいたボランティア国際年推進委員会韓国事務局のボランティア21と筆者がやり取りしたメールの内容からもそのことがうかがえる。ボランティア21は韓国における中心的なボランティア活動に関する研究・調査団体であるが、団体に所属して行うボランティア活動を‘volunteer activities’、個人が行うボランティア活動を、‘neighbouring activity’などと英語を用いて説明していた。ここに、韓国におけるボランティア活動の定義が不安定で曖昧な理由を見た。筆者はボランティア活動が注目されている今、韓国独自の「ボランティア活動」を捉え、定義し直す必要があると考え、本稿のテーマに韓国のボランティア活動を選んだ。

この研究を通じて、韓国で行われているボランティア活動は、「他人に対する慈善または奉仕」が主流であり、「自らの願いで、他人に奉仕すること」が韓国におけるボランティア活動の定義に最も近いことが明らかとなった。

ボランティア活動は大きな可能性を持っており、今後ますますボランティアは注目されるであろう。しかし筆者はボランティアがすべての問題を解決する「万能の切り札」だなどと思っているわけではない。実際一人のボランティアのできることは身近なほんの些細なことではかないと思う場合も多い。しかし、筆者はその可能性と魅力を経験により十分に知っている一人として、今回このテーマに挑んだ。そして、実際にこの研究を通じて、ボランティアに関わる多くの韓国人ボランティアと出会ったことは筆者の大きな宝となった。

本稿は、筆者が実施したアンケート回答者を中心に分析・考察したものであるため、韓国全体のボランティア活動については一般化することができないという問題はある。また「宗教とボランティアの関わり」という視点からのアプローチも試みようとしたが、筆者の力量不足のため断念した。ボランティア活動は時代の背景によっても様々に変化する。今後このテーマに関する研究がさらに進められ、ボランティア活動が今以上に活発に行われることを願っている。

最後に、ボランティア国際年の昨年2001年にさまざまな形での活動を通して、より多くの韓国の市民がボランティア活動に参加するきっかけをつかんだことを願い、また2002年の日韓共催ワールドカップでの多くのボランティアの活躍を期待したい。